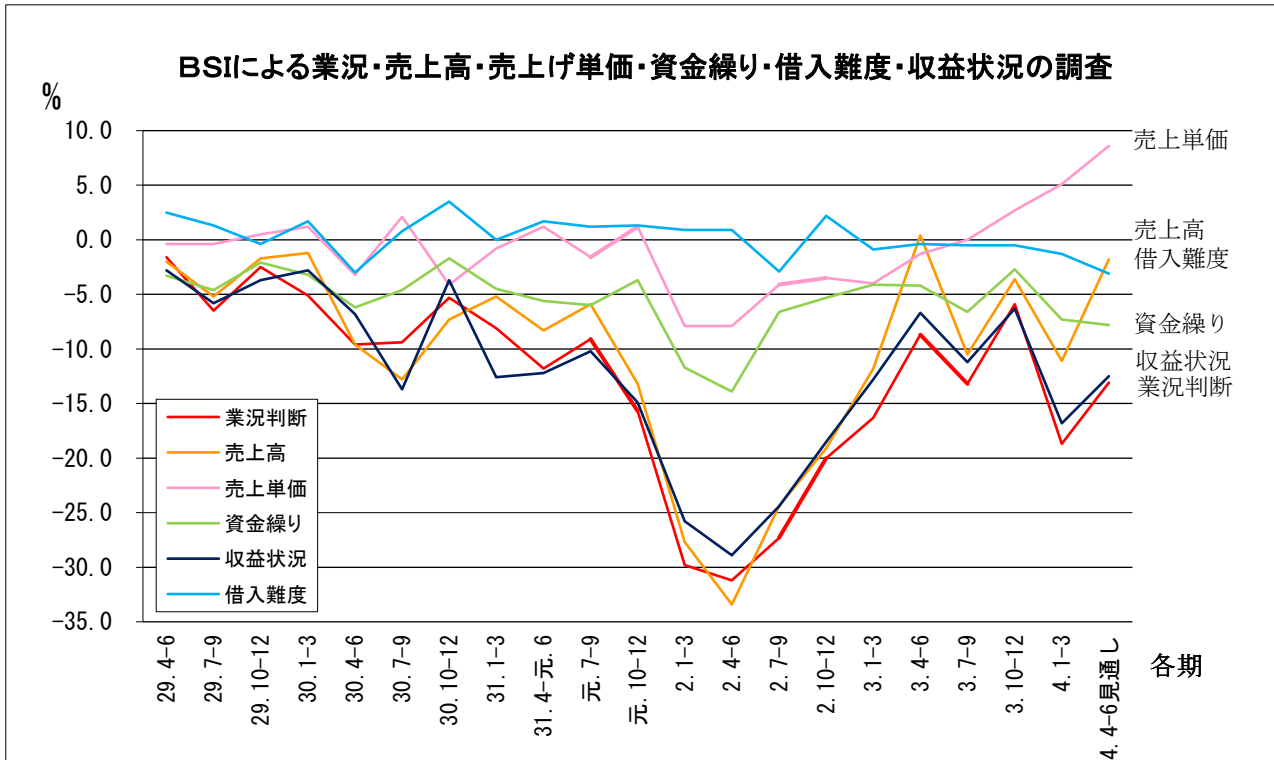


# 中小企業景況調査結果報告書

令和4年1-3月期(令和4年4-6月期予測)

—鳥取県下4商工会議所の調査より—



先期比\*( )内は2021.10~12月期の数字

	回収数	売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断
全産業合計	118	-11.1 (-3.6)	5.1 (2.7)	-7.3 (-2.7)	-1.3 (-0.5)	-16.8 (-6.3)	-18.7 (-5.9)
製造業	34	-7.4 (10.6)	10.3 (3.1)	-13.3 (0.0)	-5.9 (-1.5)	-14.3 (3.0)	-16.2 (1.5)
非製造業	84	-12.7 (-9.6)	3.0 (2.5)	-4.9 (-3.9)	0.6 (0.0)	-17.9 (-10.2)	-19.7 (-9.0)
(建設業)	23	-8.7 (-6.3)	-6.6 (-2.1)	4.6 (4.2)	6.8 (2.1)	-13.1 (-8.4)	-15.3 (-8.4)
(卸売業)	19	-7.9 (3.1)	21.1 (12.5)	0.0 (-3.2)	2.7 (0.0)	-13.2 (0.0)	-21.1 (-3.1)
(小売業)	22	-31.0 (-27.5)	4.6 (2.3)	-18.2 (-11.4)	-6.9 (-4.6)	-31.8 (-25.0)	-31.8 (-23.8)
(サービス業)	20	-2.5 (-5.6)	-5.0 (0.0)	-5.3 (-6.3)	0.0 (3.2)	-12.5 (-3.0)	-10.0 (3.0)

来期(2022.4~6月期)見通し\*( )内は(2022.1~3月期)の見通し

	回収数	売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断
全産業合計	118	-1.8 (-14.4)	8.6 (-0.9)	-7.8 (-5.4)	-3.1 (-0.5)	-12.5 (-14.3)	-13.1 (-14.9)
製造業	34	4.5 (-13.6)	13.2 (0.0)	-13.3 (-4.6)	-5.9 (-3.0)	-8.8 (-9.1)	-10.6 (-13.7)
非製造業	84	-4.3 (-14.8)	6.7 (-1.3)	-5.6 (-5.8)	-1.9 (0.7)	-14.0 (-16.5)	-14.0 (-15.4)
(建設業)	23	-6.8 (-20.9)	0.0 (-8.4)	2.3 (0.0)	0.0 (2.1)	-16.0 (-20.9)	-11.4 (-22.9)
(卸売業)	19	-2.7 (-6.3)	21.1 (0.0)	-2.7 (-9.4)	2.7 (0.0)	-13.2 (-15.6)	-15.8 (-12.5)
(小売業)	22	-11.9 (-23.8)	6.8 (6.8)	-15.9 (-11.4)	-6.8 (-2.3)	-20.5 (-22.8)	-26.2 (-19.1)
(サービス業)	20	5.3 (-2.9)	0.0 (-2.8)	-5.6 (-3.1)	-3.0 (3.2)	-5.3 (-3.0)	-5.3 (-3.0)

\*BSI=(上昇・増加-減少・下降)×1/2 (但し、「上昇・増加」+「横ばい」+「減少・下降」=100)

経営者の業況に対するマインドを反映するもの。(0%は「上昇・増加」と「減少・下降」が同数。「+」は上昇・増加、「-」は減少・下降)

## ■業況(グラフ参照)は……

長引くコロナ禍に加え、ロシアのウクライナ侵攻による原油高騰等の影響が見受けられ全産業合計の業況判断はマイナス 18.7 ㊦と前期(2021.10~12)から 12.8 ㊦悪化しました。

来期の見通しは若干改善の傾向が見られるものの、ウクライナ問題の長期化による原材料価格の高止まりが懸念されるなど、不透明感が残る結果となっています。

### [今期の動向]

全産業合計では、売上単価を除く項目が前期から悪化しており、新型コロナウイルス「オミクロン株」の感染拡大に加え、ロシアのウクライナ侵攻による影響を感じられる結果となりました。

全産業合計で唯一改善した売上単価が 2.4 ㊦の改善と小幅だったのに対し、収益状況は 10.5 ㊦大幅に悪化しており、その要因には、ウクライナ情勢の影響による原材料価格の高騰分を売上単価に転嫁しきれていないことが推察されます。

### [来期(2022.4~6)の見通し]

全産業合計の来期見通しは、資金繰りと借入難度を除く項目が改善の傾向を示しています。特に売上高は前回調査から 12.6 ㊦と大きく改善の見通しとなっています。

首都圏などで新型コロナウイルスの感染拡大に落ち着きが見られる中、ゴールデンウィークに一部業種で景気の持ち直しが期待される一方、原材料価格の高騰や新型コロナウイルス感染拡大の動向などには注視が必要であり、まだまだ先行き不透明な状況が続きそうです。

## ■直面している経営上の問題点

- 1位: 原材料・仕入れ価格上昇(20.20%)
- 2位: 売上・受注の減少(14.58%)
- 3位: 消費・需要の停滞(12.24%)
- 4位: 経費の増加(10.50%)
- 5位: 人手不足(9.33%)

## ■各社からのその他の問題点(西部企業の回答より)

- ・切れ目のない公共工事の発注をお願いする。(建設業)
- ・原材料価格の上昇が昨年より続いている。コロナ、ウクライナ等々、世界情勢の悪化を身近に感じる。(建設業)
- ・物価高、ガソリン高をはじめとするエネルギー高による、海外輸入商品が値上がりが続いている。円安も加わって、毎月のように値上げの連絡が来ている。(小売業)
- ・方向性を定めにくい。IT 知識に乏しい。(小売業)
- ・メーカー在庫不足の為顧客納入が遅れる。(小売業)
- ・調理人の不足、仕入れ価格の高騰に苦慮している。(サービス業)
- ・注文品の入荷遅延がおこっている。(サービス業)
- ・食材仕入単価はその後落ちついたものの、感染拡大により需要が低下し、2月の営業は10日となりました。当初余裕のあった資金も徐々に減少しており、新たな借入をしないと運転資金が乏しくなってきました。ただ、返済を考えるとなかなか厳しい状況です。(サービス業)
- ・受注はあるが、部品の入荷状況が悪いため、生産が遅れている。(製造業)
- ・電気、ガス等のエネルギー単価上昇や各種資材の値上げにより、利益の確保に苦慮している。対策を講じてほしい。(製造業)
- ・新型コロナウイルスの影響大。現状、営業活動が制約される。(製造業)